

第4回会議

- 1 開催日：平成30年12月19日（水）
- 2 場所：コミュニティセンター小湊
- 3 内容：「小湊まちづくり会議」報告書（案）について概要及び100人会議を踏まえた修正点の説明を事務局から行った後、質疑応答などを実施
- 4 配付資料

	資料名	備考
1	第5回100人会議 会議概要	第6回100人会議 「資料1」
2	第5回100人会議 記入シートまとめ	第6回100人会議 「資料2」
3	検討会議の開催経過について	第6回100人会議 「資料3」
4	「小湊まちづくり会議」小湊小・中学校跡地活用の方向性	第6回100人会議 「資料4」
5	「小湊小・中学校の跡地活用を中心とした地域の活性化について」報告書（案）	第6回100人会議 「資料5」
6	第6回100人会議 会議結果	
7	報告書（案）の修正について	

5 主な発言等

地域との関係について

- 合宿所になるのであれば、入浴施設やトレーニング機器を地元の人でも使えるようにして欲しい。また、小学校に給食センターが併設されているので、それをうまく活用してもらいたい。
⇒利用制限などはないようにしたい。また、投資すべきところはするが、既存の建物をなるべくいかすことを考えていきたい。
- 地域の住民が気軽に集える空間、コミュニティで使える空間を設けてもらいたい。
⇒皆さんの「思い」を受け止めて、喜んでもらえる施設を目指していきたい。
⇒設計等の段階で皆さんの「思い」が抜け落ちてしまうのが怖いので、今後も皆さんに関わっていただくことが大切だと思う。
- 今後の責任を持つという意味でも、若い人の意見も聞いていただきたい。
⇒報告書を外部に出して寄せられた結果について、皆さんにフィードバックをしながら、一番いい方法を考えて進めていきたい。
- 地域に根差している例を見ると、地域側の中間団体関わっていることが多い。住民側が組織的に自分たちの施設として関わっていくために、地域側でも中間団体を作り、組織的に関わることを続けてもらいたい。

施設のあり方について

- 廃校の活用事例を見てみると、大きく分けて、行政が管理するもの、民間企業等で私有化されるもの、開かれた施設にするものという3つがある。小湊は3つ目を目指すべきであり、今後市でテナントなどを募集する際には、決して私有化とならないように留意して進めてもらいたい。

- 日本で小湊だけにしかないという「売り」をどう付け加えていくかが重要である。
⇒鴨川を本当に理解してくれて、このまちをどうしたらいいかということの本気になって考えてくれる事業者と一緒にやっていきたい。
- 最初に全体のプランを描くことに加え、第1期、第2期といった形で、将来の人が参画可能な現実的な計画作りも考えて欲しい。
- 稼がなくては、民間企業は潰れてしまう。「サービス＝稼ぐ」ことである。例えば、老朽化した鯛バスの代替として、合宿の送迎サービスもしながら、地域の住民が使えるような仕組みができたと思う。
⇒稼ぐというのは人が集まるということでもあるが、稼ぐことを第一の目的とするのではなく、少しでも利益を上げながら、人が集まってもらえるような形をとっていきたい。

日蓮上人について

- 施設だけではなく、小湊地域全体を複合的に考えて、日蓮上人をいかしていただきたい。
⇒高野誠鮮さんや立正大学などとも連携をしながら、丁寧に進めていく。
- 施設を外にアピールしていく際には、鴨川市、小湊は日蓮上人のふるさとであるということ必ず入れていただきたい。

<構想日本 伊藤氏>

暮らしや地域に根差すということは、イコールコミュニティ施設というだけではない。

小湊さとうみ学校で働く方が小湊にお住まいということも十分に考えられるし、先ほどの送迎の話も、地域でNPOを作って実施している例を知っている。

個人的に、暮らしに根差すということは、地域の方が関わることで、それ自体であると思う。

施設が2021年にオープンして、2023年、2024年になった頃に小湊の人たちが毎日のように施設に出入りしていたら、それが成果指標の1つになるとも思うので、そういった形の施設になればいいと感じている。